

亀岡市の概要

2023年7月20日

亀岡市セーフコミュニティ推進協議会

会長 桂川 孝裕

委員 山本 安彦

亀岡市の概要①位置・面積・人口

面積:224.8km²

人口:86,959人(京都府内3位)

男:42,350人

女:44,609人

世帯数:40,296世帯

(2023年6月1日現在)



亀岡市の概要②地理・気候

○気候

- ・年間平均気温:15.2℃
- ・年間降水量:1,716.0mm

○地理

- ・市域全体で自然が豊か

→森林面積は市全体の7割の15,302ha(2015.4.1現在)

- ・朝方に市域全体を濃霧が包む

→観光スポットとして「かめおか霧のテラス」を設置



亀岡市の概要③施策等

〇2020年

- ・サンガスタジアムby KYOCERA完成
- ・レジ袋禁止条例施行

〇2021年

- ・かめきたサンガ広場完成
- ・ウッドスタート宣言
- ・デジタルファースト宣言

〇2022年

- ・子どもファースト宣言

〇2023年

- ・オーガニックビレッジ宣言



取り組みに至った経緯

地域の絆の希薄化

さまざまな不安が地域社会に浸透

死亡原因の上位は不慮の事故や自殺



SC

人と人とのつながり・地域コミュニティの再生
安全・安心のまちづくり

セーフコミュニティのあゆみ①

2008年 セーフコミュニティ国際認証を初取得

2011年 自殺、乳幼児、高齢者、交通安全、防犯
など各種対策委員会を追加設置

2013年 セーフコミュニティ再認証を取得
安全・安心まちづくりフェスタを開催
セーフスクール取組を宣言

2014年 市民安全・安心フォーラムを開催
篠町に「安全安心モニュメント」を設置

2015年 セーフスクールの国際認証を取得

2016年 ドライブレコーダーによるまちの見守り
協定の締結開始



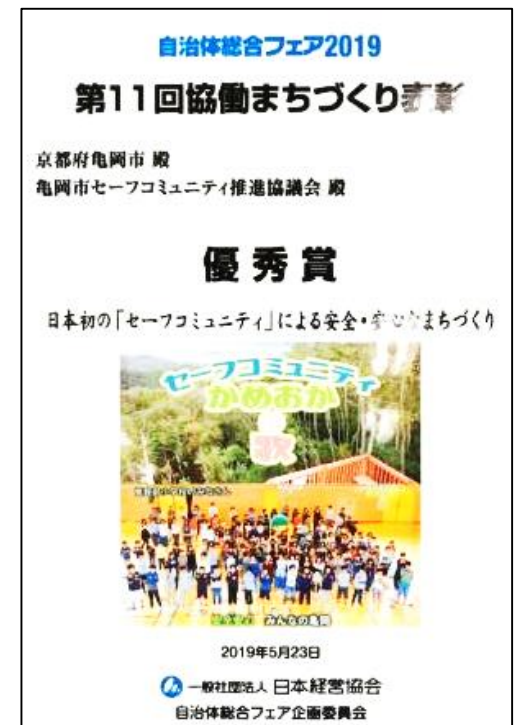
セーフコミュニティのあゆみ②

- 2017年 推進協議会の再編・強化
- 対策委員会の再編・強化
- 市民参加型プロジェクト開始
- ☆セーフティドライブプロジェクト
- ☆まち・レコプロジェクト



- 2018年 セーフコミュニティ再々認証と
セーフスクール再認証を取得
- 「セーフコミュニティかめおかの歌」
と動画を制作、YouTubeで配信開始

- 2019年 第11回協働まちづくり表彰式にて
「セーフコミュニティによる安全・安心な
まちづくり優秀賞」受賞



- 2021年 防災対策委員会 設置

セーフコミュニティのあゆみ③

安全安心の実現に向けた取り組み



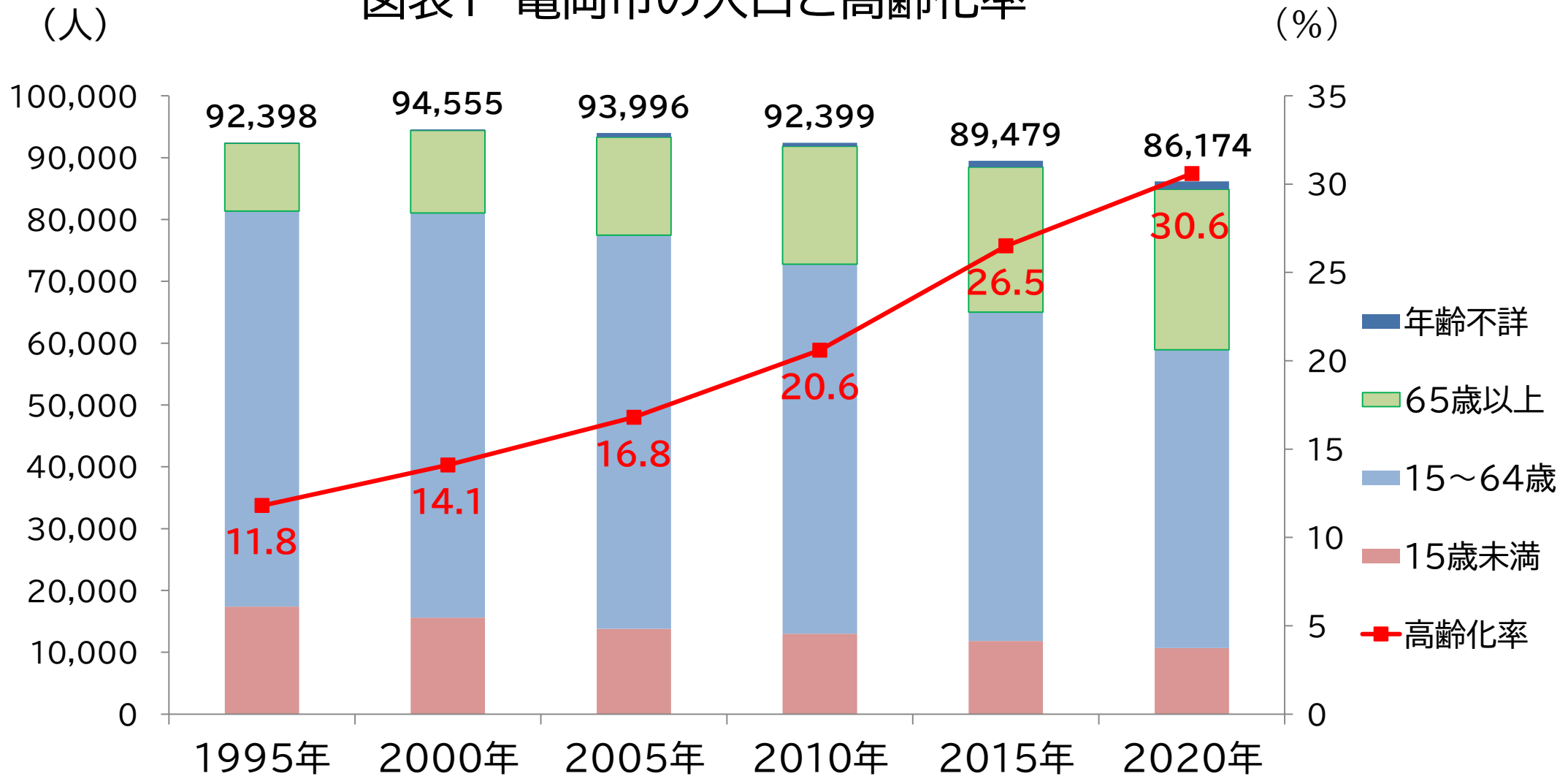
①2012年の通学路交通死亡事故を忘れない

②セーフコミュニティ発祥の地である篠町からSCの理念を発信し
市民協働による安全安心なまちづくりを推進する

亀岡市の概要④年齢3区分別人口と高齢化率

人口は減少傾向、高齢化率は上昇

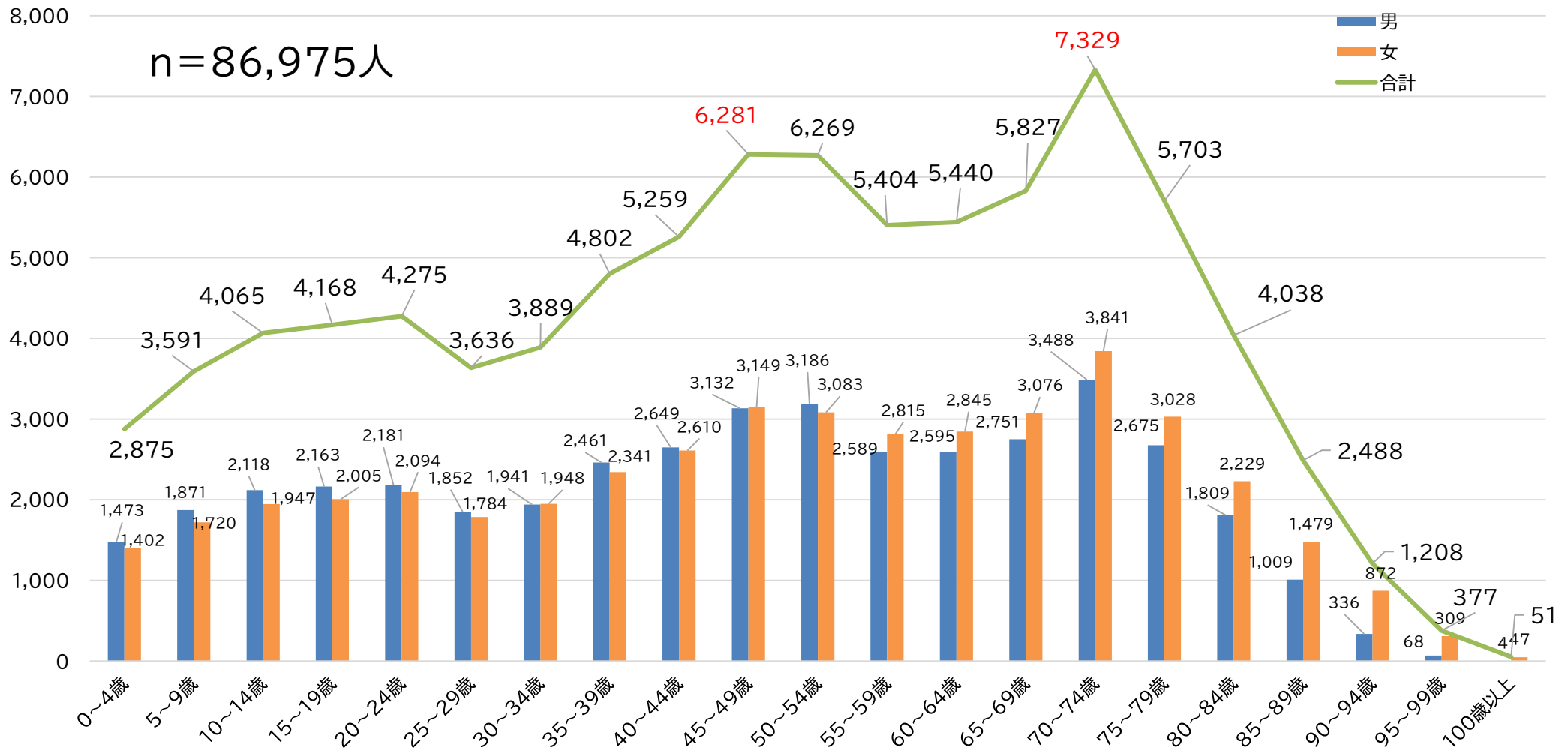
図表1 亀岡市の人口と高齢化率



亀岡市の概要⑤年齢別・男女別人口

年齢層では70歳～74歳が最も多い

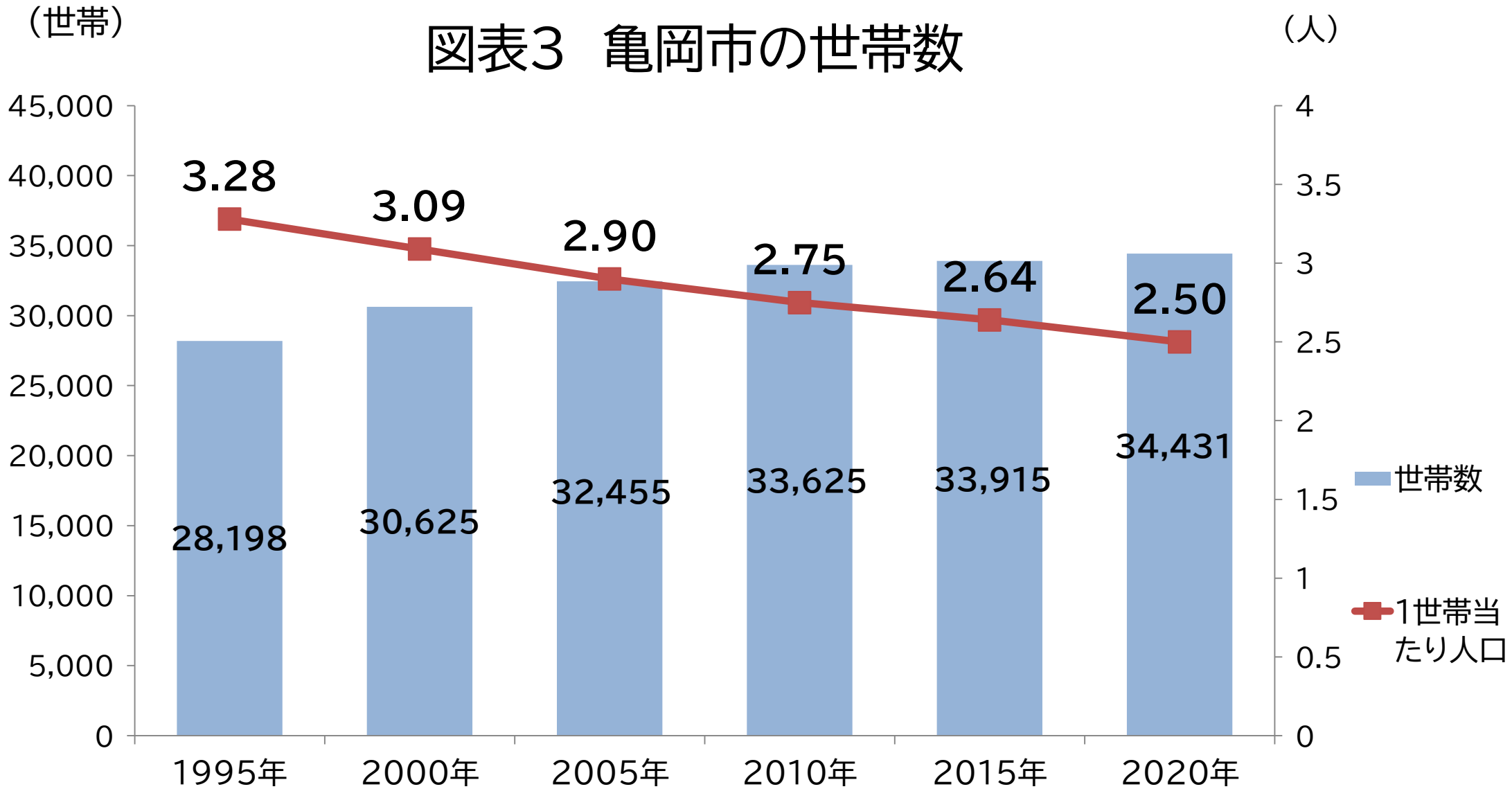
(人) 図表2 亀岡市の年齢層別・男女別人口(2023年4月1日現在)



亀岡市の概要⑥亀岡市の世帯数

単身世帯や核家族の増加

図表3 亀岡市の世帯数



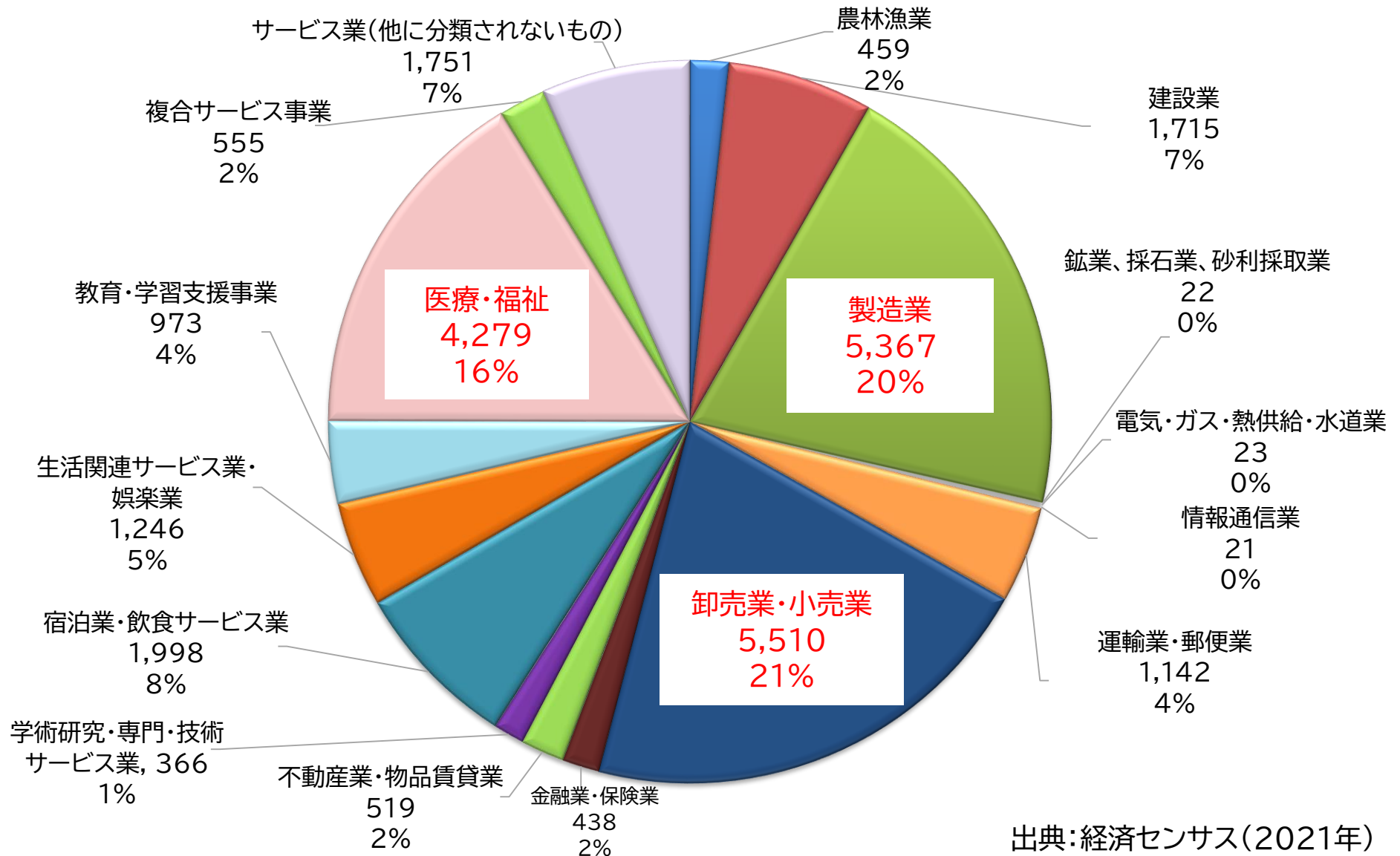
出典：国勢調査(各年10月1日)

亀岡市の概要⑦産業構造

製造・卸売・小売業・医療・福祉で全体の57%を占める

図表4 亀岡市の産業構造

n=従業者数26,384人

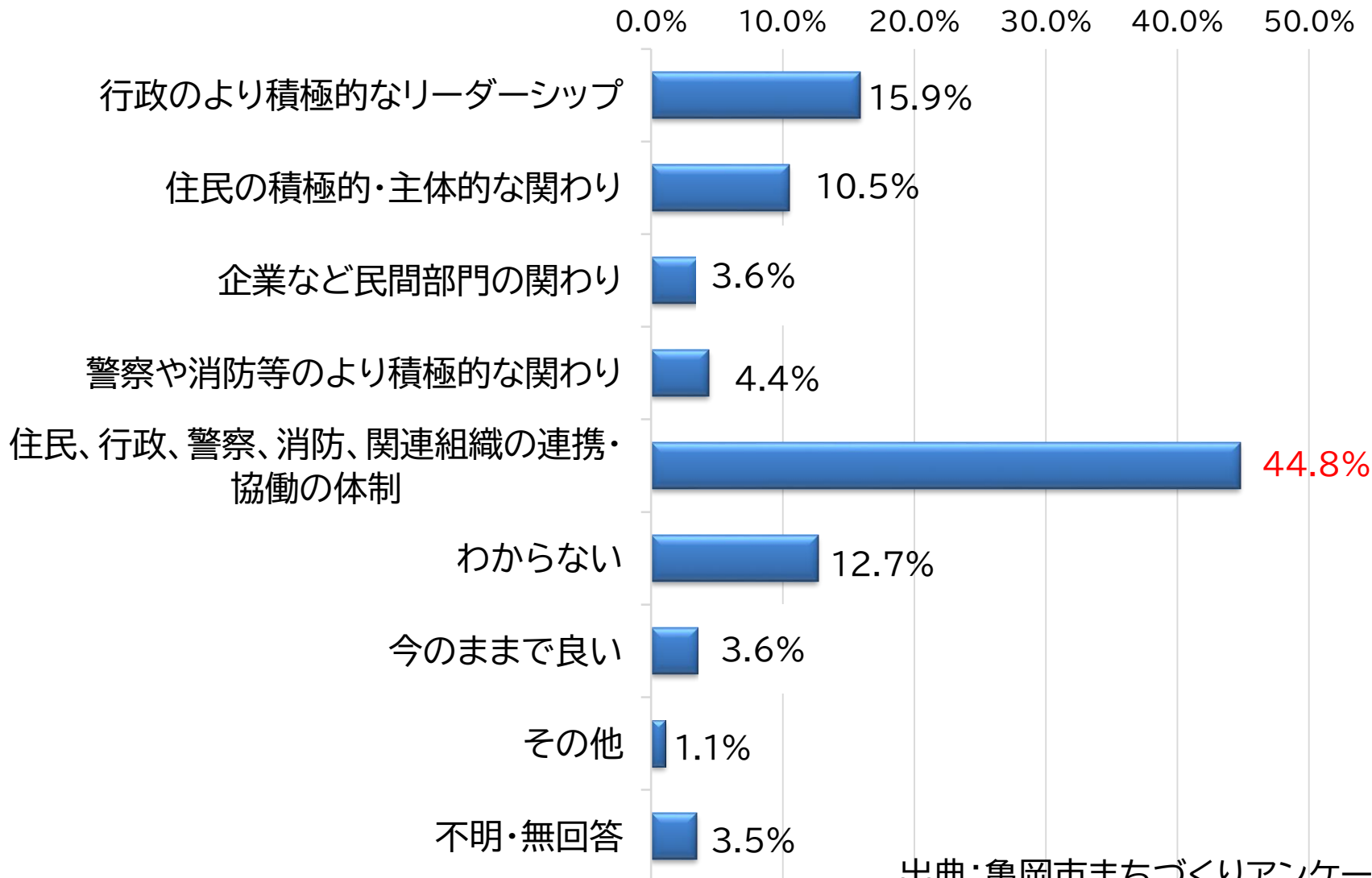


出典: 経済センサス(2021年)

亀岡市の概要⑧市民意識

図表5 亀岡市民の意識

「セーフコミュニティ認証市」として、誰もが安全で安心して生活できるまちづくりを進めていく上で、最も重要なこと(単数回答)

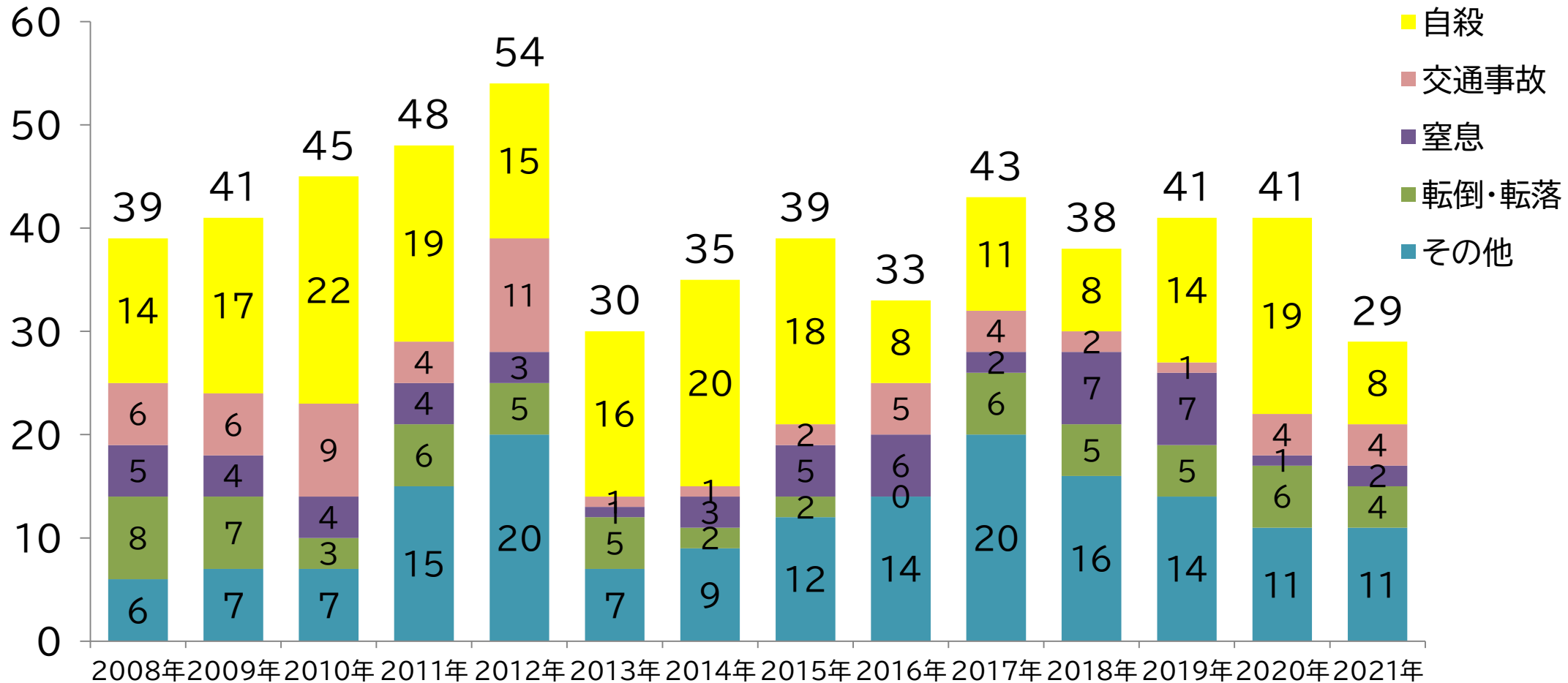


出典:亀岡市まちづくりアンケート(2019年)

亀岡市の概要⑨外傷による死者数の推移

死者数の内訳は自殺が多い傾向

図表6 外傷による死者数の推移



初認証

再認証

再々認証

亀岡市の概要⑩外傷による死因上位

多くの年代で死因の1位が「自殺」

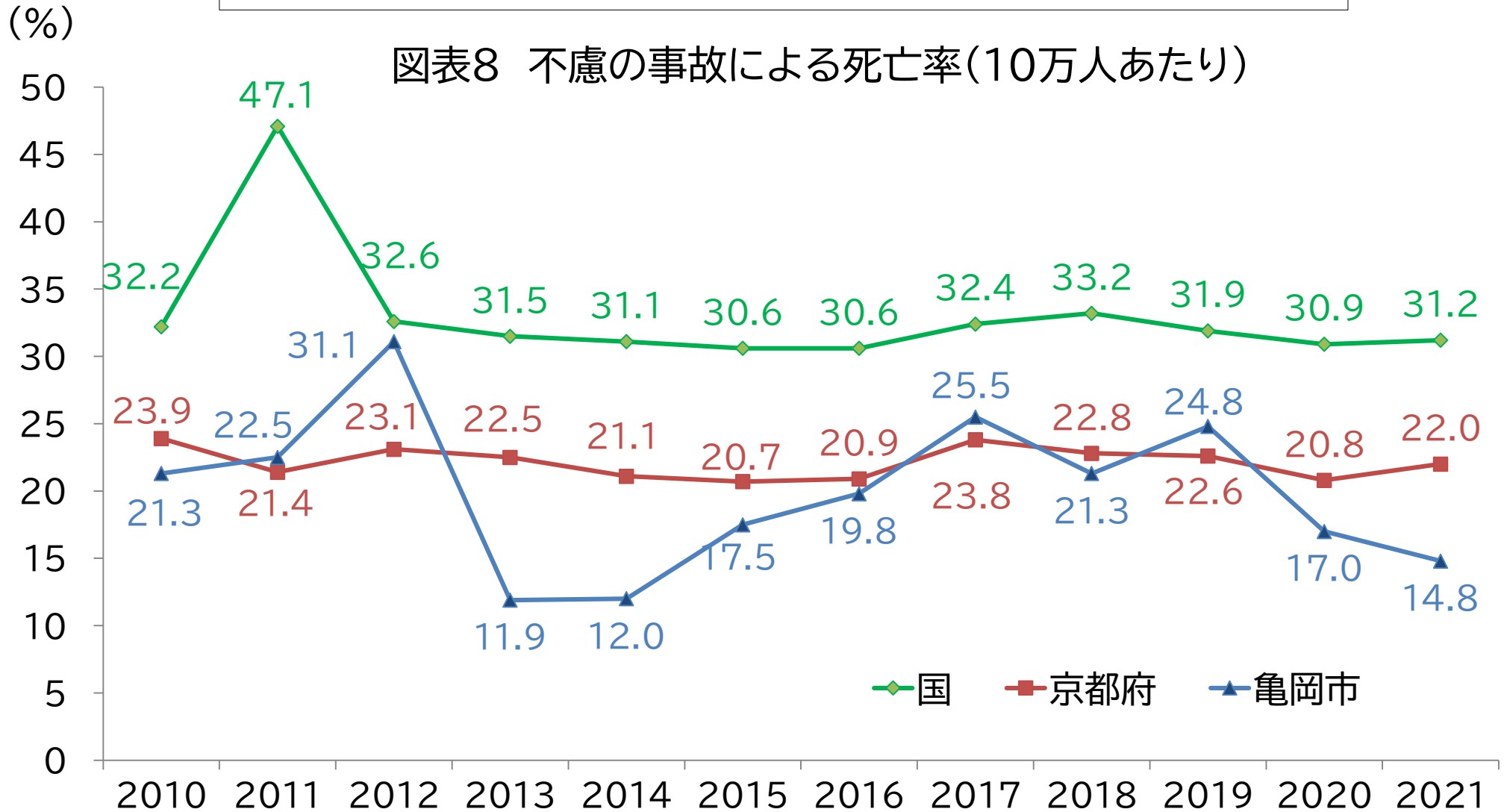
図表7 外傷による死因上位5位(2013~2021)

年齢階級	死亡者数	1位	2位	3位	4位	5位
0-9歳	2人	交通事故、窒息				
10-19歳	2人	自殺(2人)				
20-29歳	24人	自殺(18人)	溺死及び溺水	転倒・転落、他殺、その他の外因		
30-39歳	31人	自殺(23人)	交通事故	その他の不慮の事故	中毒、他殺	
40-49歳	31人	自殺(22人)	その他の外因	交通事故、中毒		転倒・転落、窒息
50-59歳	26人	自殺(17人)	その他の不慮の事故	窒息	交通事故、転倒・転落、その他の外因	
60-69歳	39人	自殺(17人)	その他の外因	交通事故	その他の不慮の事故	溺死及び溺水 窒息、火災
70-79歳	54人	自殺(16人)	その他の外因	交通事故、転倒・転落		その他の不慮の事故
80-89歳	76人	その他の外因	その他の不慮の事故	転倒・転落	窒息	自殺(6人)
90歳以上	44人	窒息 その他の外因		転倒・転落	その他の不慮の事故	自殺(1人)

亀岡市の概要⑪外的要因による死亡率の推移

外的要因による死亡率は国と比較して低い

図表8 不慮の事故による死亡率(10万人あたり)



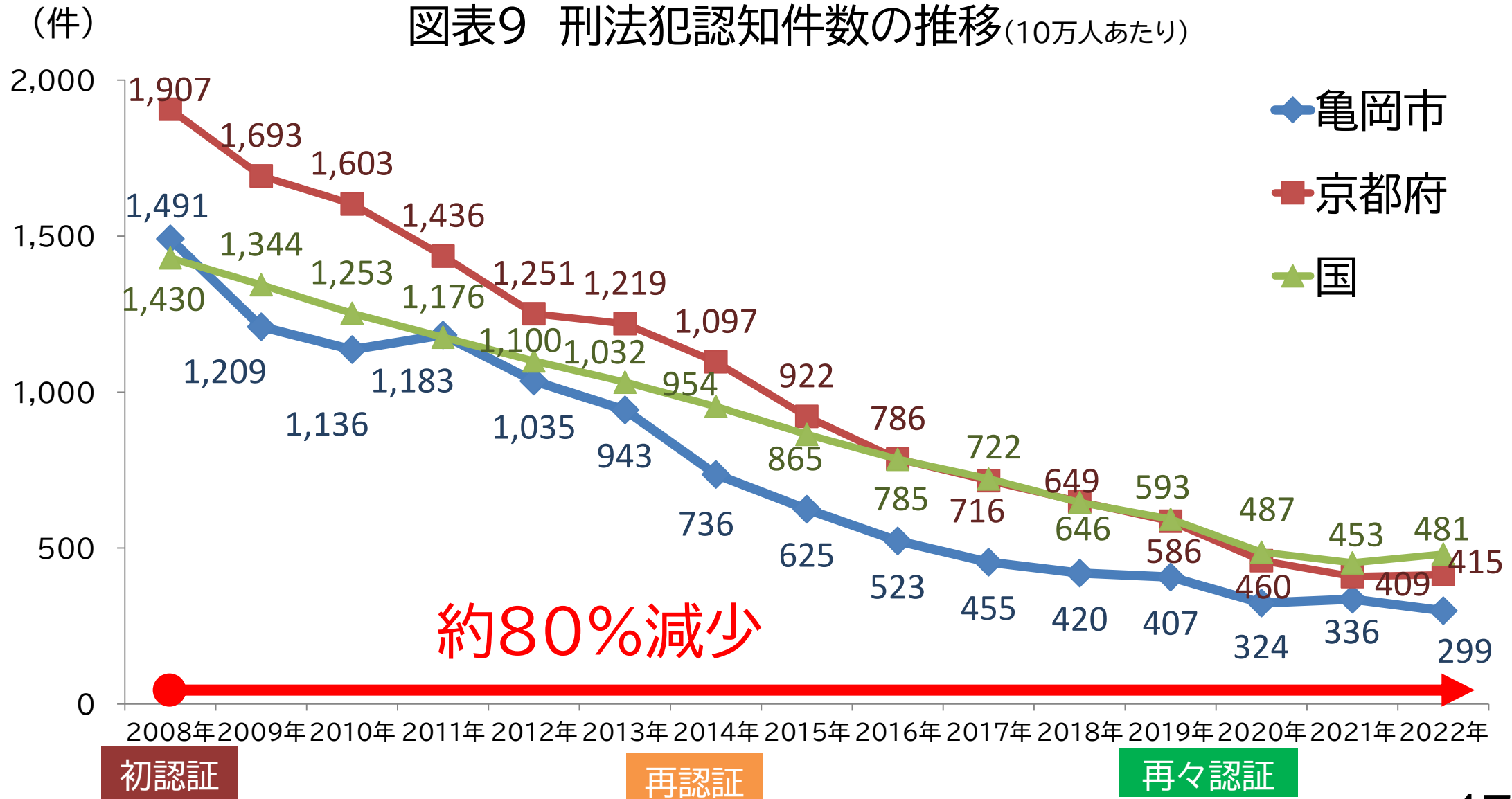
再認証

再々認証

亀岡市の概要⑫刑法犯認知件数の推移

刑法犯認知件数は初認証から約80%減少

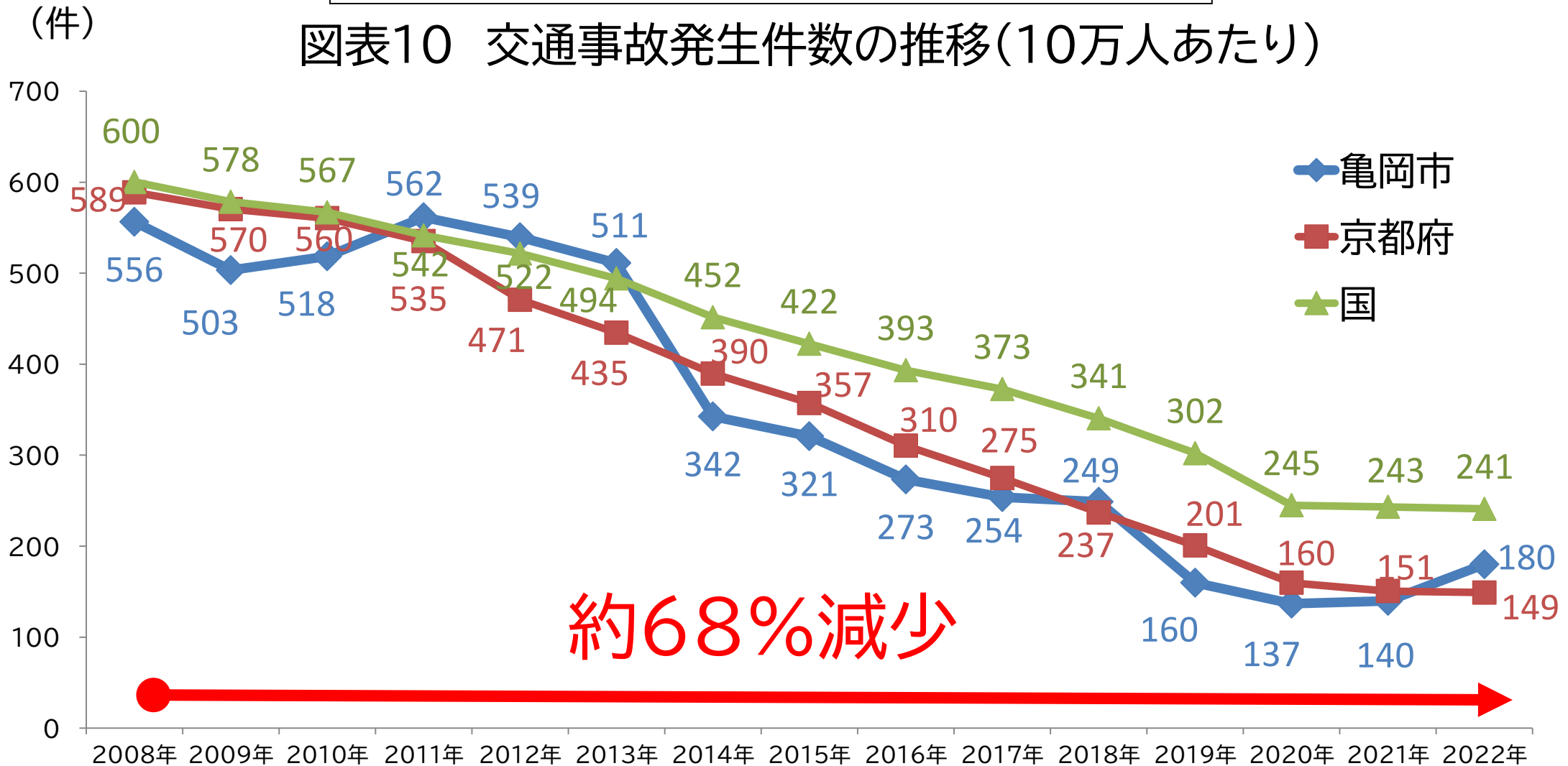
図表9 刑法犯認知件数の推移(10万人あたり)



亀岡市の概要⑬交通事故発生件数の推移

交通事故発生件数は約68%減少

図表10 交通事故発生件数の推移(10万人あたり)



初認証

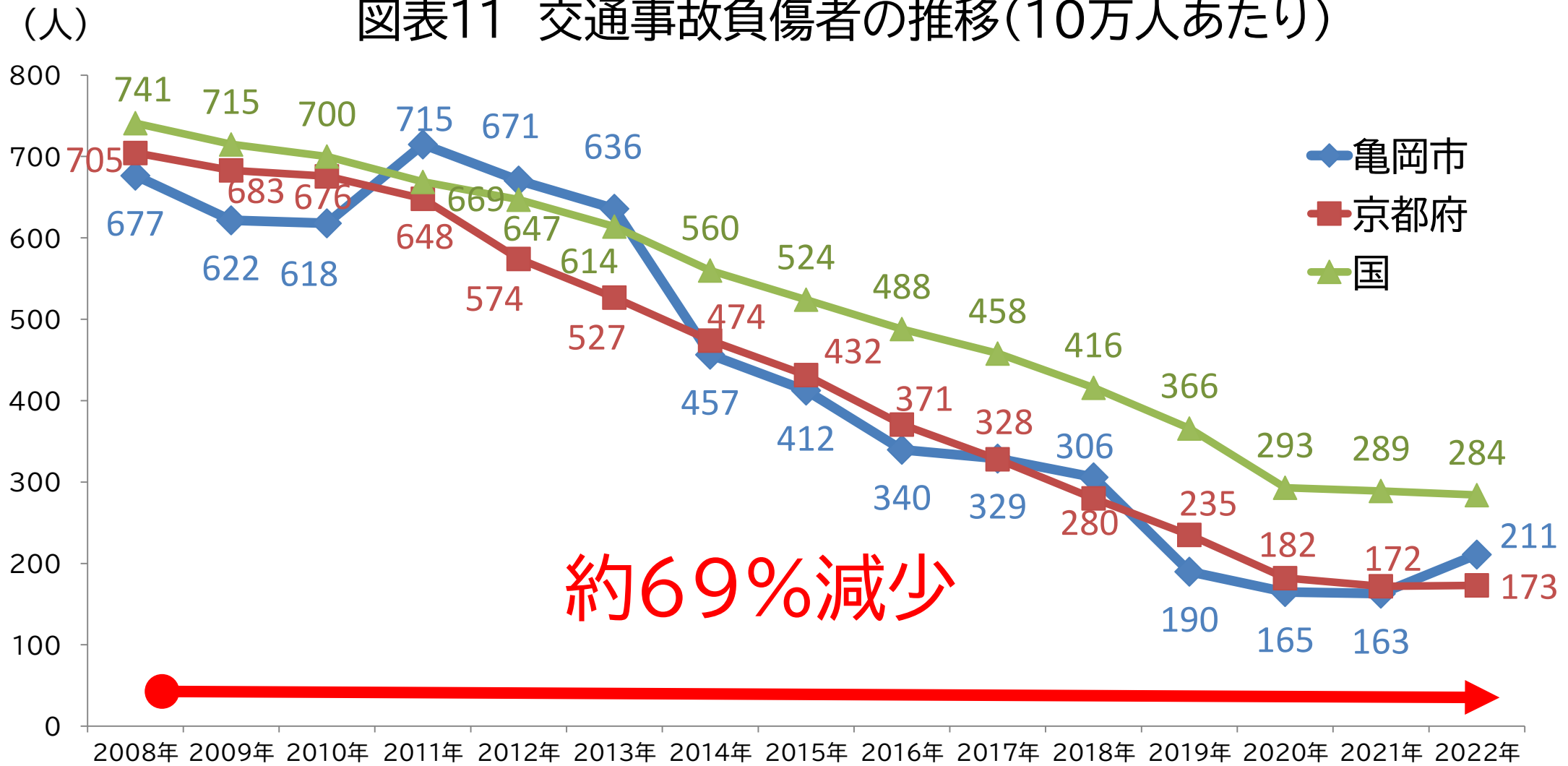
再認証

再々認証

亀岡市の概要⑭交通事故負傷者数の推移

交通事故負傷者は約69%減少

図表11 交通事故負傷者の推移(10万人あたり)



初認証

再認証

再々認証

出典:交通統計(警察庁)

ガイドラインに沿った7指標に基づく活動

- 指標1 分野横断的な協働と連携に基づいた推進体制
- 指標2 両性、全年齢・環境・状況を網羅する長期的・持続的プログラム
- 指標3 ハイリスクの集団や環境、弱者への安全向上プログラム
- 指標4 入手可能な根拠に基づいたプログラム
- 指標5 傷害の頻度と原因を記録するプログラム
- 指標6 プログラムの内容・過程・変化による効果を評価する手法
- 指標7 国内外のネットワークへの継続的な参加

セーフコミュニティの推進体制

推進協議会



日本セーフコミュニティ推進機構(JISC)
(外部評価)

指標2

全年齢・環境をカバーするプログラム

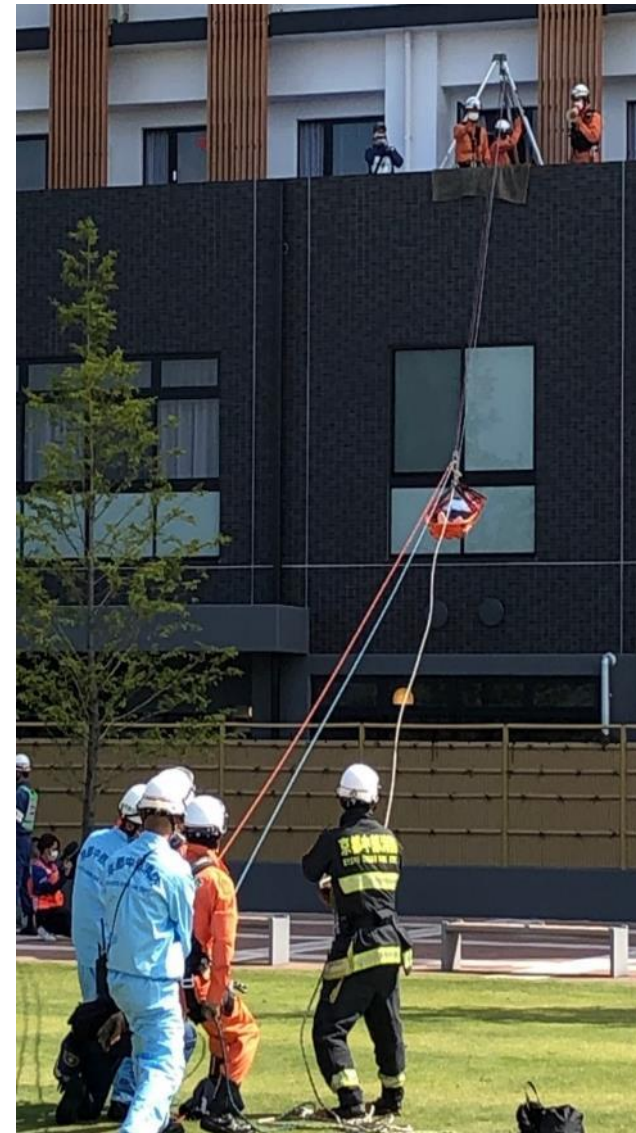
図表12

※各年齢層で主なものを列挙

		子ども 0-14歳	青年 15-24歳	成人 25-64歳	高齢者 65歳～
不慮の 事故	1 家庭	・保護者向け安全教育 ・啓発パンフレット配布	・福祉なんでも相談窓口 ・相談窓口啓発	・福祉なんでも相談窓口 ・相談窓口啓発	・転倒予防体操 ・福祉なんでも相談窓口 ・認知症等事前登録制度
	2 学校	・子ども110番の家 ・避難訓練	・避難訓練		
	3 職場・労働	・福祉なんでも相談窓口 ・相談窓口啓発	・福祉なんでも相談窓口 ・相談窓口啓発 ・生活困窮者支援	・福祉なんでも相談窓口 ・相談窓口啓発 ・生活困窮者支援	・福祉なんでも相談窓口 ・相談窓口啓発 ・生活困窮者支援
	4 交通・公共	・登下校の見守り ・交通安全運動、各種啓発 ・自転車安全利用教育	・交通安全運動、各種啓発 ・自転車安全利用教育	・交通安全運動、各種啓発 ・反射材着用促進	・運転免許証自主返納支援 ・交通安全運動、各種啓発 ・反射材着用促進
	5 スポーツ	・スポーツの安全教育	・スポーツの安全教育	・スポーツの安全教育	・スポーツの安全教育 ・転倒予防体操
意図的 要因	6 自殺	・福祉なんでも相談窓口 ・ゲートキーパー養成講座 ・こころの体温計	・福祉なんでも相談窓口 ・ゲートキーパー養成講座 ・こころの体温計	・福祉なんでも相談窓口 ・ゲートキーパー養成講座 ・こころの体温計	・福祉なんでも相談窓口 ・ゲートキーパー養成講座 ・こころの体温計
	7 暴力・犯罪	・各種防犯意識啓発活動 ・防犯カメラ活用 ・ドライブレコーダー活用	・各種防犯意識啓発活動 ・市内高校で自転車盗啓発 ・防犯カメラ活用 ・ドライブレコーダー活用	・各種防犯意識啓発活動 ・防犯カメラ活用 ・ドライブレコーダー活用	・各種防犯意識啓発活動 ・防犯カメラ活用 ・ドライブレコーダー活用
	8 災害	・防災訓練 ・こども防災士養成講座	・防災訓練 ・防災士養成講座	・防災訓練 ・防災士養成講座	・防災訓練 ・防災士養成講座

指標2

亀岡市総合防災訓練



災害時の安全対策



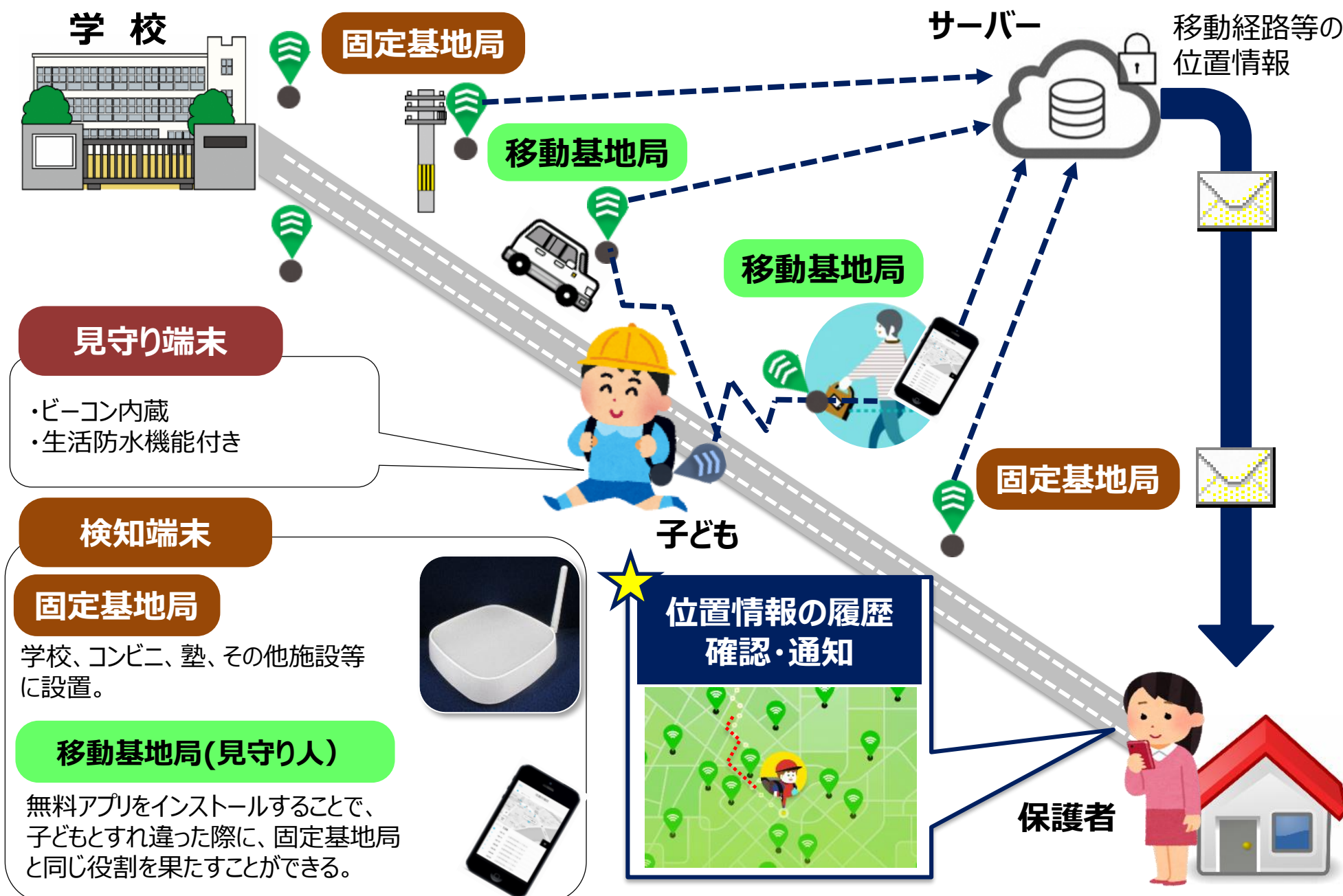
亀岡市トイレトレーラー

青色防犯パトロール



亀岡市内22団体、合計台数119台の青色防犯パトロールによる市内全域での啓発・見守り活動(2023年6月末現在)

子ども見守りシステム

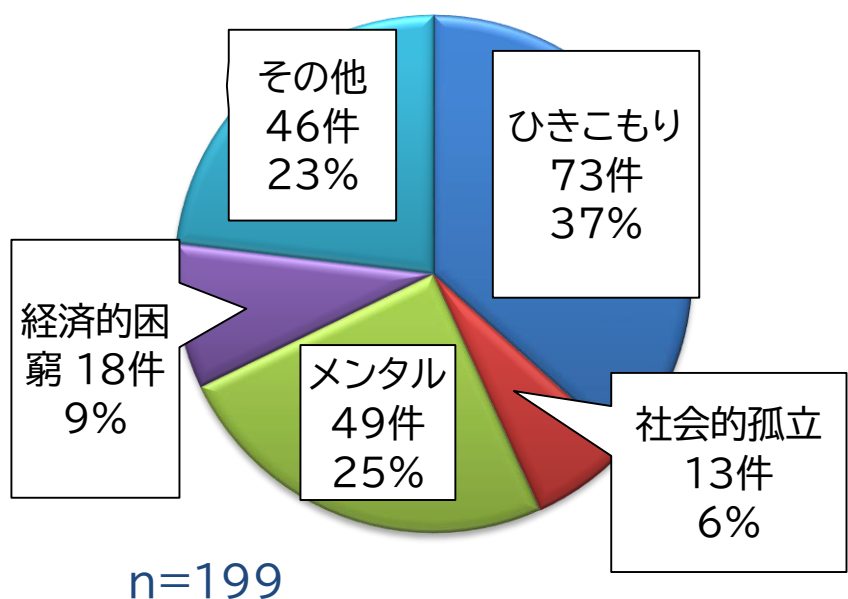


指標2

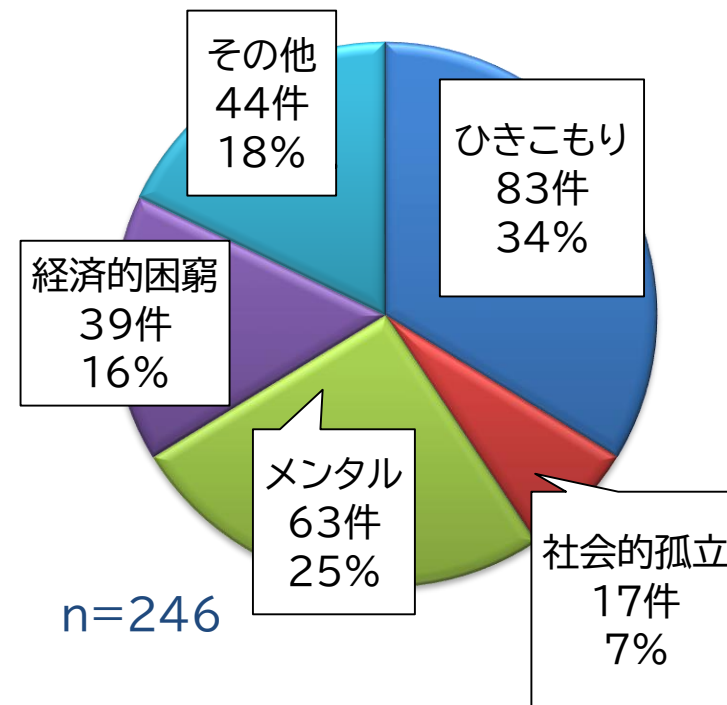
福祉なんでも相談窓口

図表13 年度別 相談内容内訳

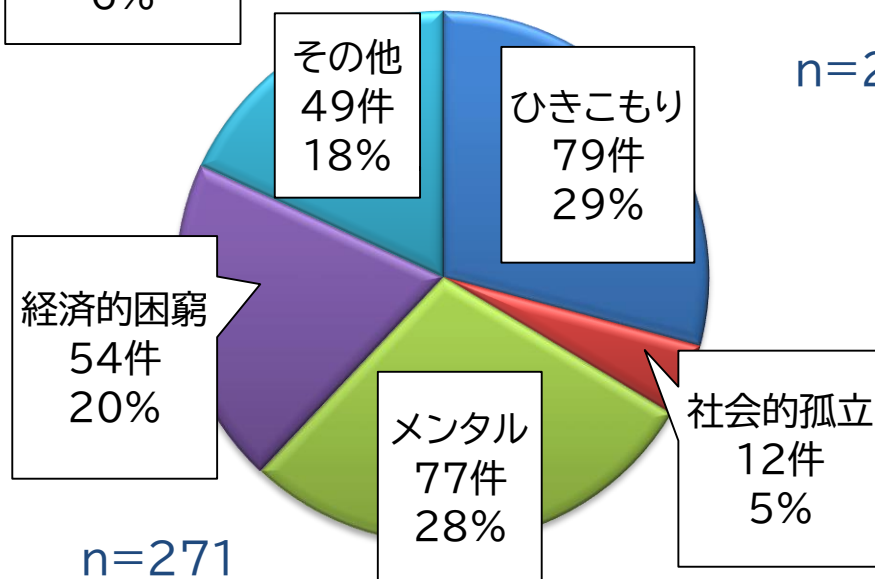
2020年度



2022年度



2021年度



指標3

ハイリスクグループ

①虐待を受けているこども、高齢者、いじめ、DV

⇒家庭内で虐待を受けている人は、その状況を口にすることが少なく、外部から把握することが困難。

②身体障がい、精神的疾患、発達障がい及び他の障がいを有する人

⇒障がい者は災害などの緊急時には対応が遅れ、被害にあう可能性が高い。

③自然災害被害者

⇒近年日本は大震災・大津波による甚大な被害を受けており、今後も南海トラフ地震等巨大地震が起こると予測されている。

④外国籍住民

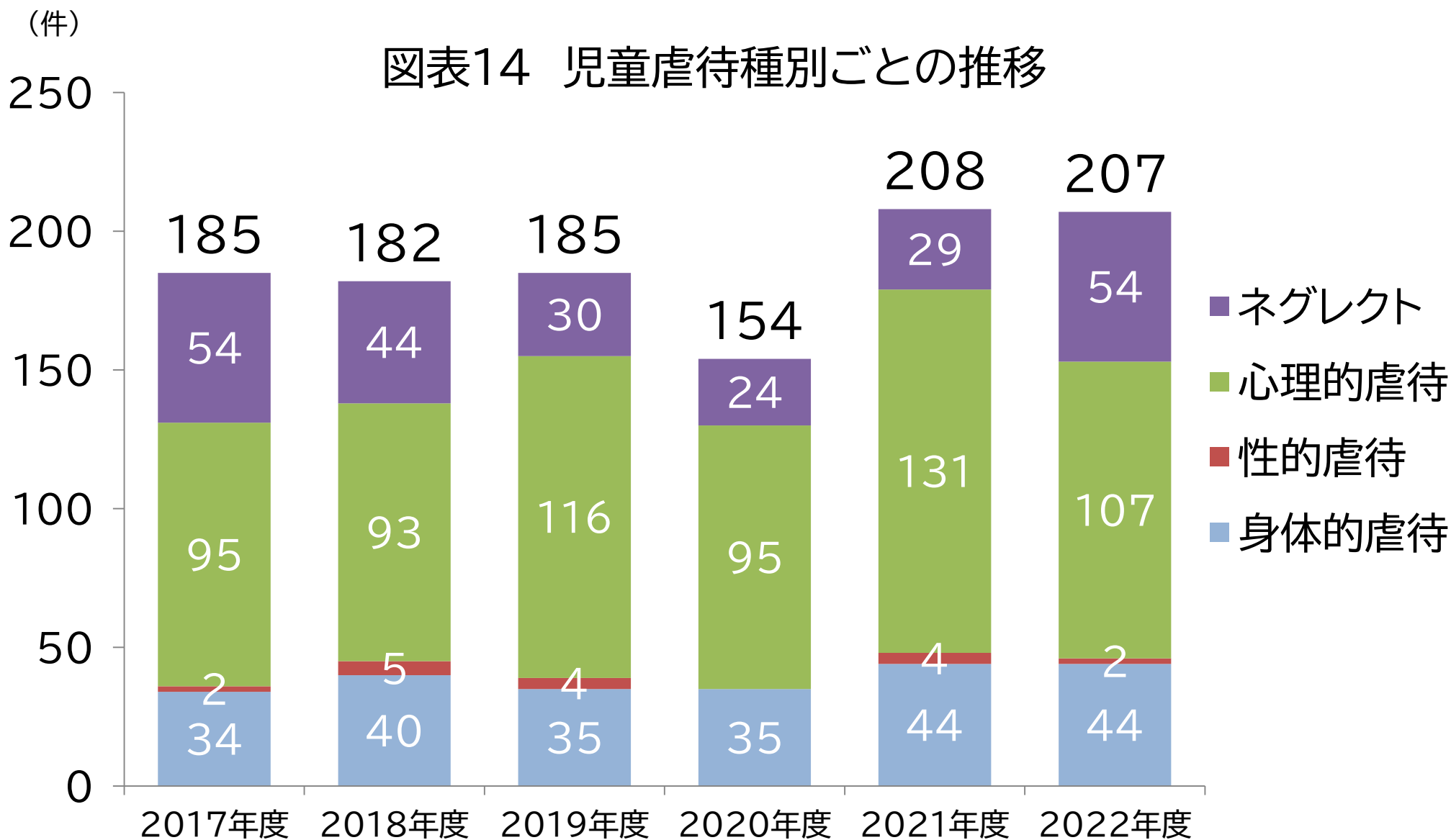
⇒本市には多くの外国籍住民が居住されており、言葉や文化の違いにより普段の生活などにも支障をきたすことがある。



ハイリスクグループに位置づけ

児童虐待対応状況

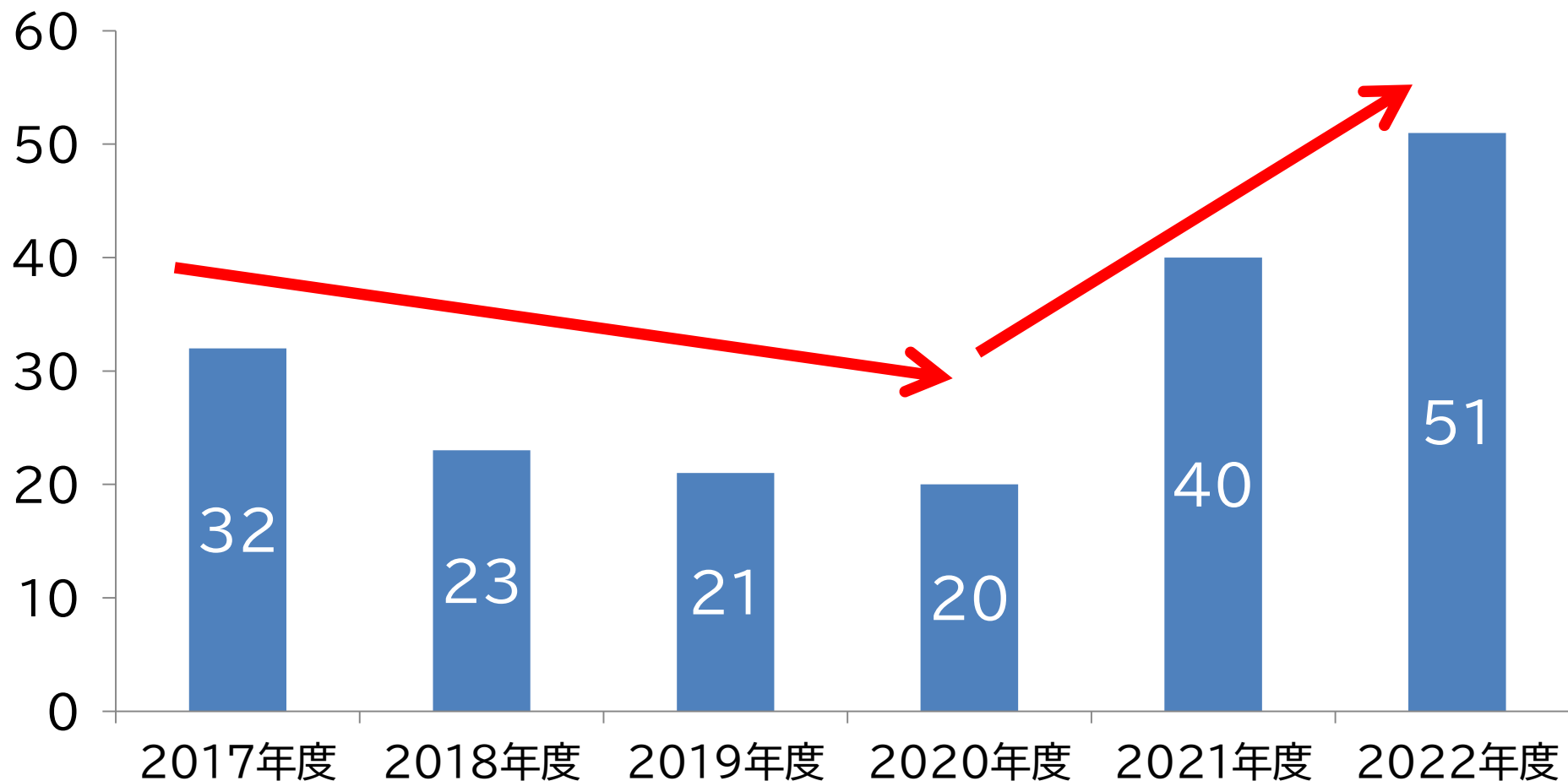
児童虐待件数は増加傾向



高齢者虐待相談件数は2021年度から増加

(件)

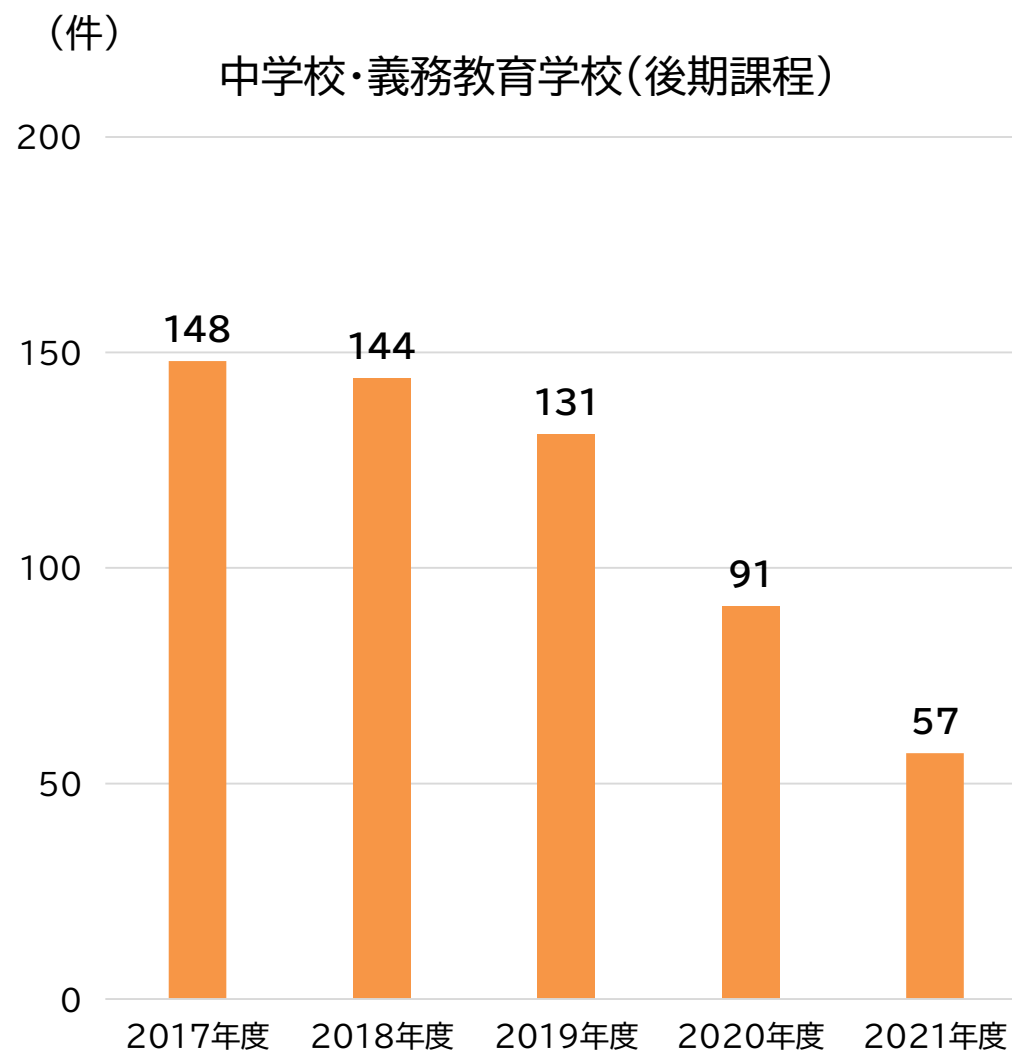
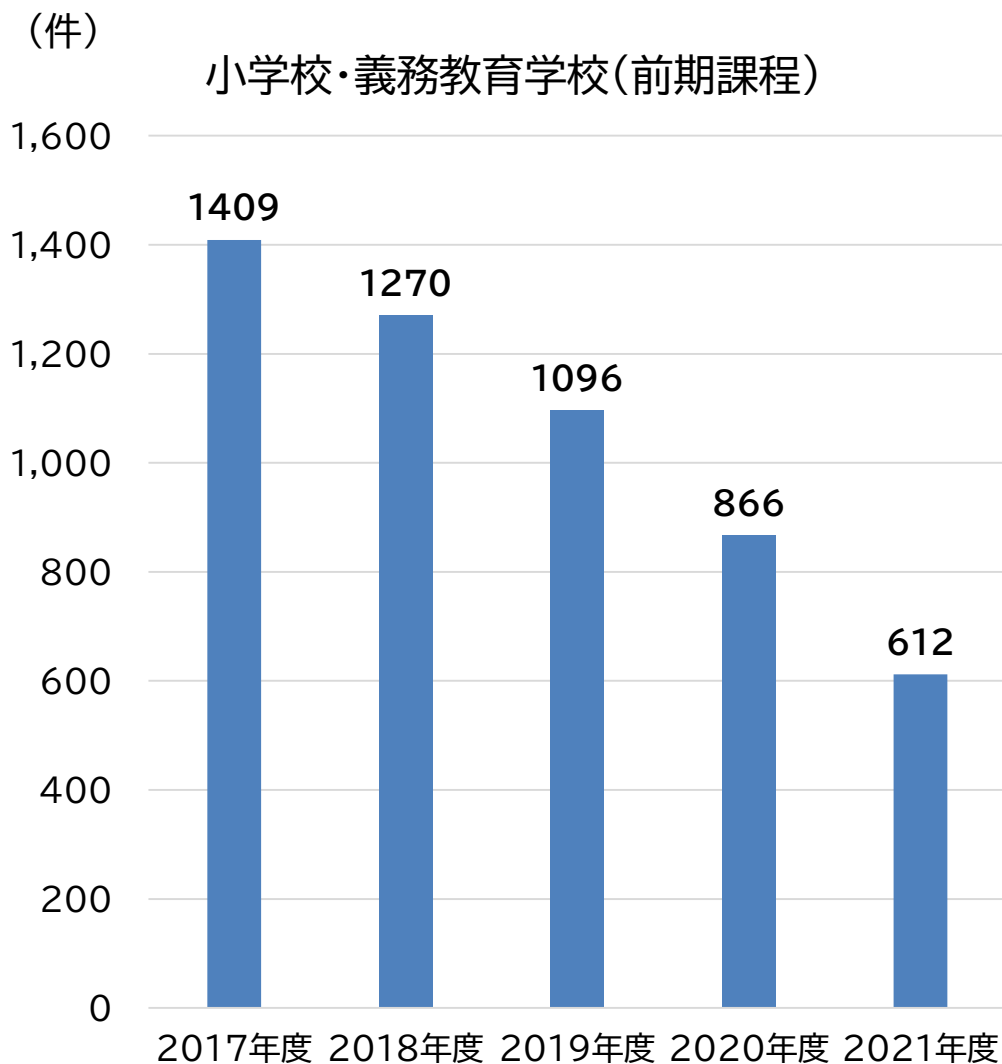
図表15 高齢者虐待相談受理件数の推移



出典:京都府報告資料(亀岡市高齢福祉課)

いじめ認知件数は減少傾向

図表16 認知件数の推移



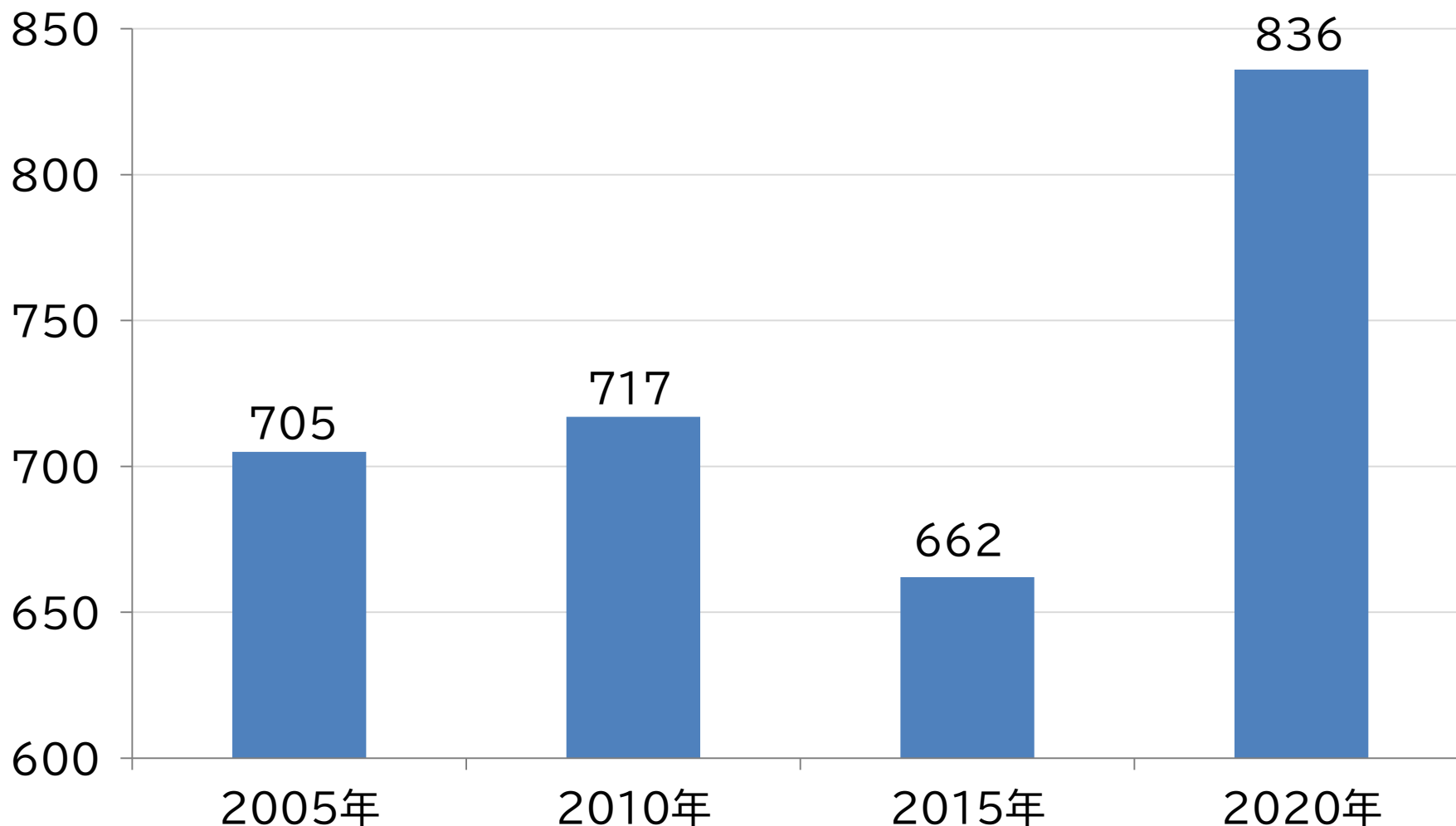
指標3

外国籍住民の状況

外国籍住民は増加傾向

(人)

図表17 亀岡市の外国籍住民人口の推移



指標3

外国籍住民の状況

図表18 外国籍住民人口の国別推移

(人)

	韓国・朝鮮	中国	フィリピン	タイ	ベトナム	イギリス	アメリカ	ブラジル	ペルー	その他	計
2005年	500	59	55	4	0	3	12	5	7	60	705
2010年	430	128	63	16	0	5	13	2	5	55	717
2015年	331	114	47	13	27	2	15	6	7	100	662
2020年	268	118	41	9	114	2	13	2	0	269	836

重点課題	選定理由
乳幼児の安全	4歳以下の外傷受傷場所は住宅、特に屋内が多い
高齢者の安全	<ul style="list-style-type: none"> ①高齢化が進んでいる ②高齢者10万人あたりの負傷者数は年々増加している
スポーツの安全	外傷の多くは余暇・スポーツ活動中に発生
自殺対策	外傷による死亡原因は、自殺が最も多い

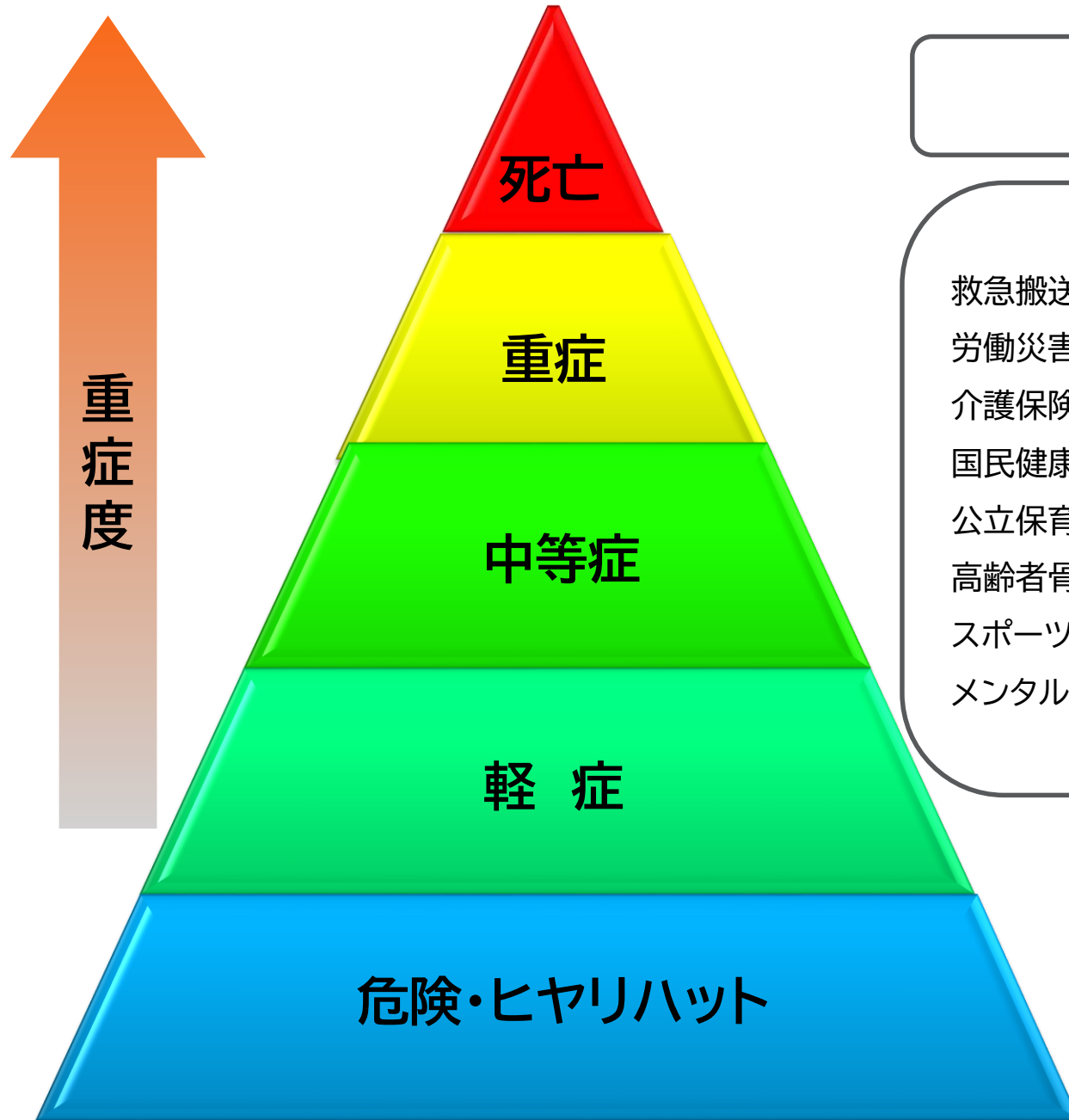
根拠に基づいた取り組み②

重点課題	選定理由
交通安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ①交通事故の発生件数は約500件/年以上、負傷者は約600人/年以上、死亡事故も毎年のように発生している ②救急搬送データでは外傷の約50%が交通事故
防犯対策	<p>街頭犯罪認知件数は2009年までは減少傾向にあったが2010年に増加に転じている(特に自転車盗が急増)</p>
防災対策	<ul style="list-style-type: none"> ①自然災害について不安に感じている市民が多い ②防災訓練等に参加する市民の割合が少ない



対策委員会の取り組み

収集している外傷データ



人口動態統計

救急搬送データ／火災・救急・救助統計
労働災害に関する統計／災害共済給付申請記録
介護保険データ／後期高齢者医療レセプト
国民健康保険レセプト／外傷発生動向調査
公立保育所園児のけが／家庭における乳幼児のけが
高齢者骨折データ／高齢者運動介入データ
スポーツ外傷調査／歩行能力調査
メンタルヘルス調査／心の健康に関する調査

警察統計

アンケート調査等
(市全域、保育所、スポーツ)



	年	関係自治体等	概要
国内	毎年	SC自治体	全国SC推進自治体ネットワーク会議に参加
		日本SC推進機構	定例会、研修会に参加
	2018	アジア	第9回アジア地域SC会議厚木大会で発表
	2019	認証自治体	さいたま市の現地審査と認証式、十和田市の認証式に出席
		内閣府	第11回協働まちづくり表彰式に出席
	2020	認証自治体	鹿児島市の再認証現地審査・再認証式にオンライン参加 都留市の事前審査にオンライン参加
	2021	認証自治体	都留市、厚木市、秩父市の現地審査にオンライン参加 郡山市、豊島区の事前指導にオンライン参加
2022	認証自治体	豊島区、郡山市の現地審査にオンライン参加 松原市の事前指導にオンライン参加 豊島区の認証式に市長によるビデオメッセージ(祝辞)	
国外	2020	アジア	タイ ムアンナーン認証式・国際シンポジウムにオンライン参加
	2022	アジア・世界	第10回アジア地域SC会議・第25回世界SC会議に市長によるビデオメッセージで参加
	2023	世界	セーフコミュニティ創立者レイフ・スヴァンストローム氏のお別れの会に市長によるビデオメッセージ



各地方議会



SC安全安心のまちづくり全国協議会
(オンライン)



JICA(独立行政法人国際協力機構)



アジア会議・世界会議

活動の工夫点① 企業との連携

亀岡市 × 三井住友海上
 亀岡の安全を「みまもる！」
 安心を「つなげる！」

交通安全 & 防犯

かめおか「セーフティライブ」プロジェクト
 安全運転中

かめおか「まち・LiCoプロジェクト」
 みてます

亀岡市 × 三井住友海上の
 交通事故防止・犯罪抑止取組

セーフコミュニティがめおか
 女性委員会事務局 TEL:0771-25-8728
 男性従業員事務局 TEL:0771-25-8640

亀岡市と三井住友海上は地域社会の持続的な発展に資することを目的として、2022年にSDGs推進に関する協定を締結しました。SDGsの目標「3 すべての人に健康と福祉を」「16 平和と公正をすべての人に」ではそれぞれ交通安全・防犯に関するターゲットが明記されており、協働で交通事故防止と犯罪抑止に取り組んでいます。

市民参加型プロジェクトとのコラボ



災害対応型防犯カメラ付き自動販売機



ドライブレコーダーによるまちの見守り協定

国内初のセーフコミュニティ国際認証都市
セーフコミュニティ かめおか
 ～けがや事故を予防しよう～ Vol.41 令和5年2月号

セーフコミュニティとは、「けがや事故は偶然の結果ではなく予防できる」という観点から市民の皆さまと行政機関などが協働して安全・安心に暮らせるまちをつくる取り組みです。

亀岡市では、「スポーツの安全」「自衛対策」「高齢者の安全」「乳幼児の安全」「交通安全」「防犯」「防災」の7つの対策委員会を設置し、安全・安心なまちを目指しています。

忍込み被害多発！必ず鍵をかせましょう！

亀岡市では、家人が留守中の家屋に忍び込んで、金品を盗む「忍込み」の被害が11月末までに37件発生しています。これは2021年1年間の件数の1.54倍であり、その内、無被害の被害が34件と約92%を占めています。まずは、防犯の基本である「鍵かけ」をしっかりとし、貴重品の保管管理も徹底してください。（2022年の件数は暫定値です）

亀岡市の10年間の忍込み被害件数

年	件数
2013	16
2014	4
2015	25
2016	10
2017	12
2018	10
2019	2
2020	13
2021	24
2022(11)	37

2019年と比較すると
18.5倍に増加！

ご自由にお持ち帰りください

マクドナルドでのチラシ設置

活動の工夫点① 企業との連携

ウラ

下 3年 亀岡市⑥ めあて ・安全なまちづくりのための地いきの取り組みについて考えることができる。…3

光文書院

社会

交通事故からくらしを守る
子どもたちの安全とセーフコミュニティ

なまえ

組 番

思考・判断・表現

50

思考・判断・表現

各10点 [50]

3 安全なまちづくりのための地いきの取り組みについて考えましょう。

各10点 [50]

評価規程 地域や自分自身の安全を守るための取り組みについて、自分たちにできていることを考えたり選択・判断したりしている。



青色防犯パトロール車

防犯推進員、社会福祉協議会、亀岡市、自治会などが協力してボランティアを組織し、パトロールをしている。



小学生自転車大会

交通安全意識を高めるために、安全な乗り方ができているかなどをきそう大会が行われている。



セーフコミュニティの認証

亀岡市は国内で初めて、WHO(世界保健機関)からセーフコミュニティの認証を受けた。

亀岡市内の
小学3年生用の
社会のテスト

安全なまちづくりのための地域の取組みとして、青色防犯パトロール車や子ども自転車大会、セーフコミュニティの認証式が紹介され、設問と適合した写真を選択する問いが掲載。

(1) 次の取組みと関係の深い写真を、上のア～オから()の数だけえらんで、記号を書きましょう。

▶ まちのいろいろな立場の人が、地いきの安全のために協力してパトロールを行っている。



▶ 安全安心のまちづくりが世界にみとめられている。…



活動の工夫点② 大学との連携



市民参加型プロジェクトポスター



自殺予防啓発ポスター



自殺予防啓発チラシ

活動の工夫点③

対策委員会の連携



交通安全マス (Blue box)
防犯マス (Orange box)

スタート

ゴール

みんなでおぼろく! セーフコミュニティ すごろく

作成・発行：セーフコミュニティかめがき交通安全対策委員会、防犯対策委員会

コロナ禍の自粛期間において、家庭でも啓発につながるよう交通安全と防犯に特化したすごろくを作成

交通安全対策委員会
防犯対策委員会

同時期に進めていたプログラムを効果的に広報するため合同で啓発

活動の工夫点④

セーフコミュニティニュース

回覧

国内初セーフコミュニティ国際認証都市

セーフコミュニティ かもおか



けがや事故を予防しよう

Vol.43 令和5年7月号

セーフコミュニティとは、「けがや事故は偶然の結果ではなく予防できる」という観点から市民の皆さまと行政機関などが協働して安全・安心に暮らせるまちをつくる取り組みです。

亀岡市では、「スポーツの安全」「自殺対策」「高齢者の安全」「乳幼児の安全」「交通安全」「防犯」「防災」の7つの対策委員会を設置し、安全・安心なまちを目指しています。

セーフコミュニティの現地審査を実施します(7/20~7/21)

亀岡市では、平成20年に国内で初めてセーフコミュニティの認証を取得して以降、安全安心なまちづくりを推進する取組みを継続して行ってまいりました。

今年度は、全国初となるセーフコミュニティ国内認証に向けて、2月に実施しました事前報告会で受けた指導・助言を踏まえ、7月20日(木)~21日(金)の日程で現地審査を実施します。

審査では、7つの各対策委員会が取り組みの内容や成果を発表します。セーフコミュニティの取組み内容を知っていただく良い機会となりますので、皆さんもぜひお越しください。



Zoom 配信:QRコードから当日アクセスしてください

<実施スケジュール(予定)>

7月20日(木)	7月21日(金)
9:00~10:00 セーフコミュニティの概要説明	9:30~10:30 自殺対策委員会
10:10~11:10 スポーツの安全対策委員会	10:40~11:40 乳幼児の安全対策委員会
11:20~12:20 高齢者の安全対策委員会	13:30~14:30 防災対策委員会
13:30~14:30 サーベイランス委員会	14:40~15:40 審査員ミーティング
14:40~15:40 交通安全対策委員会	15:50~16:50 セーフコミュニティ講評
15:50~16:50 防犯対策委員会	

参加費:無料 申し込み:当日受付



2月18日・19日の事前報告会の様子です。

交通事故件数が大幅に増加しています!

2022年の交通事故発生件数は154件と、2021年と比べ34件増加しました。

これから夏休み期間に入ると、交通量の増加が予想されます。スピードの出しすぎに注意し、夕暮れ時には早めのライト点灯をお願いします。また、徒歩や自転車での移動時は、車から早く発見されるよう普段から反射材を身に付けておきましょう。



本年4月に自転車乗車時のヘルメット着用が努力義務化する改正道路交通法が施行されました。交通事故の被害を軽減するためには、頭部を守ることがとても重要です。ご自身、ご家族を守るために、自転車乗車時はヘルメットを着用し、頭部を保護しましょう。

災害に備えましょう

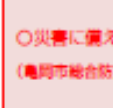
2017年から2021年の5年間の平均で見ると、7月は1年間で最も雨量の多い月です。豪雨や土砂災害、地震はいつ、どこで発生するかわかりません。日頃から災害に備え、いざという時に適切な行動が取れるよう、注意すべき情報・避難方法などを事前に確認しましょう。また、水や缶詰など災害備蓄品も用意しておきましょう。



下記QRコードから、防災関連の記事が読めます。スマートフォンや携帯電話のカメラで読み取ってください。



○ハザードマップについて (洪水・土砂災害)



○災害に備えるために (亀岡市総合防災ガイドブック)



○防災情報を受け取るには (亀岡メール情報配信サービス)

活動の工夫点⑤ セーフコミュニティ応援隊

登録者 **44名**

〔2023年7月3日時点〕

(役割)

- ・セーフコミュニティ情報の発信
- ・イベントやボランティア参加 など



応援隊ステッカー

交通安全啓発
ボランティア参加

活動の工夫点⑥

メディアでの広報



●亀岡市が年4回「ゾーン30」で走らせているペー
 ーメーカー車(2021年6月、亀岡市篠町)
 市提供の2012年の集団登校事故現場近く
 にあるSSCの基本理念などが書かれたモニュー
 メント(同市篠町)

防犯ドラレコ登録車1000台突破

企業や個人のドライブレコーダーを犯罪抑止や捜査に活用する亀岡市と亀岡署の取り組みで、協定締結やボランティア登録をした車が千台を超えた。提供映像が事件解決に結び付いたケースもあり、市と同署は、さらなる協力者の増加を目指している。

亀岡で企業や個人協力

犯罪抑止や解決に貢献

協定」と、個人向けの「かめおかまち・レコプロジェクト」で、2016年から始めた。協力者は車に専用のステッカーを貼り、普段は「動く防犯カメラ」として、街頭犯罪抑止につなげる。同署から依頼があった場合は映像を提供する。市自治防災課によ



ドライブレコーダー協定の協力
 車両に貼ってあるステッカー
 (亀岡市安町市役所)

ったケースが7件あったとい
 う。
 3日にはヤサカ力商事亀岡管
 業所、みどり学園安町幼稚園、
 睦会の3社が、市と同署と協
 定を結んだ。これにより18台
 が加わり、協力車両は計10
 05台(企業634台、個人
 371台)となった。
 調印式で桂川孝裕市長は
 「協力企業はまた市内の事業
 者の一部。今後も増やしてい
 きたい」とあいさつした。
 (南真臣)



亀岡市ドラレコ見守り協定 締結企業20社超す

企業が使っているドラレコ。車などのドライブレコーダー記録を亀岡署の捜査に提供する取り組みで、犯人逮捕につながったケースもあり、市や署はさらなる協力企業が20社を超えた。営業業の拡大を目指している。

協定は、セーフコミュニティかめおか防犯対策委員会からの提言を受け、2016年にスタート。京都府交
 通や京都タクシーを
 はじめ、医療法人や建設
 会社など協力企業は年
 々増加。2日、新たに
 マルホ発條工業、京都
 湯の花自動車学校、ニ
 チコン亀岡の3社が
 市、亀岡署と協定を締
 結し、計1社、609
 台の見守り態勢となっ
 た。
 市役所での調印式で
 は、締結した3社の代
 表が「積極的に協力し
 ていきたい」とあいさ
 つした。桂川孝裕
 市長は「犯罪被害の大
 きな証となる。個人
 情報は守りながら、協
 定の輪が一層広がっ



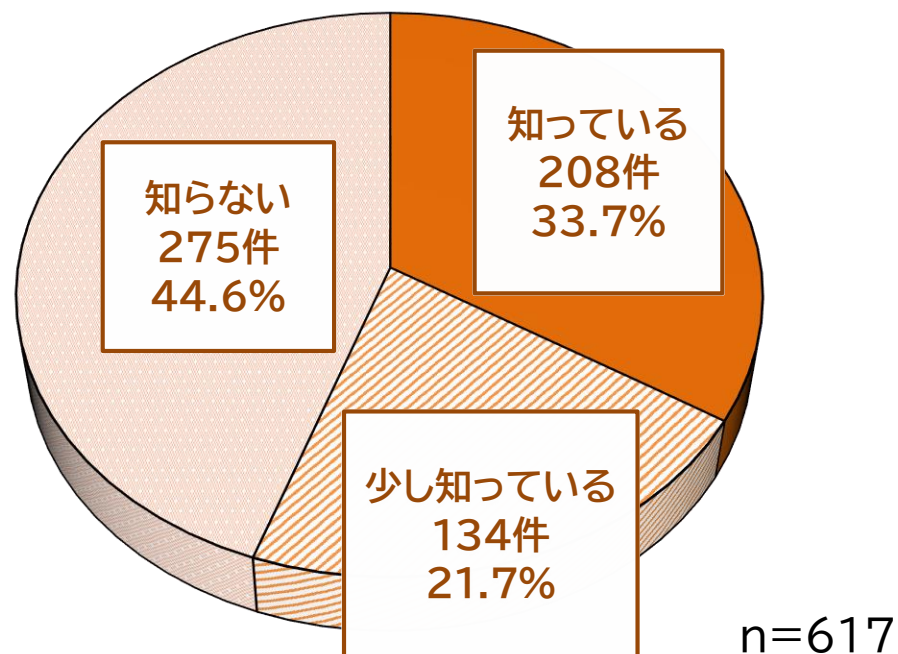
京都新聞から抜粋

NHK京都放送局の取材

セーフコミュニティ全体の課題と展望

①課題 認知度の更なる向上

(1) 亀岡市はセーフコミュニティによる「安全安心なまちづくり」を推進していますが、あなたはこの取組を知っていましたか。 ※2022年2月実施セーフコミュニティアンケートから抜粋



【セーフコミュニティの認知度】

平成19年2月 **23.3 %**

平成28年7月 **31.4 %**

令和4年2月 **55.4 %**

(知っている33.7%、少し知っている21.7%の合計)

回答者の**半分以上**がセーフコミュニティの取組を「知っている」「少し知っている」と回答⇒**更なる向上を目指す**

セーフコミュニティ全体の課題と展望

②展望 取り組みについて

- 市民参加型の取り組みをさらに発展させる
- SNS等を活用した効果的な広報・啓発活動を行う
- 各種企業・団体と連携・協働のうえ取り組む

③展望 成果について

- 活動や成果を「見える化」するため、SCニュースや市の広報紙、マスコミ等を通じて分かりやすく成果を伝える

ありがとうございました



ともに生きる



プラごみゼロ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS